

令和7年10月23日

於 教育委員会室

令和7年10月

大和市教育委員会定例会

大和市教育委員会

## 令和7年10月大和市教育委員会定例会

○令和7年10月23日（木曜日）

○出席委員（5名）

1番 教育長職務代理者	前田 良行
2番 委員	森園 広子
3番 委員	伊藤 健司
4番 委員	三浦 美里
5番 教育長	藤井 明

○事務局出席者

教育部長	斎藤 信行	健幸・スポーツ部	鈴木 雅和
こども部長	玉木 由子	教育総務課長	河村 章太
指導室長	菊地 敬幸	スポーツ×ライフ課	福士 忠生
図書・学び交流課長	磯部 壮一郎	こども青少年みらい課	鈴木 奈穂子

○書記

教育総務課 政策調整係 長	高橋 晃一	教育総務課 政策調整係 主査	伊藤 穎
---------------------	-------	----------------------	------

○日程

- 1 開会
- 2 会議時間の決定
- 3 会議録署名委員の決定
- 4 教育長の報告
- 5 議事
- 6 その他
- 7 閉会

開会 午前10時00分

○藤 井 ただいまから教育委員会10月定例会を開会いたします。  
教育長 会議時間は正午までといたします。  
今回の署名委員は、2番、森園委員、3番、伊藤委員にお願いいたします。

続きまして、教育長の報告をさせていただきます。前月定例会以降の動きです。

1、大和市青少年問題協議会、9月30日、大和市役所。大和市健全育成大会について及びその中で実施される表彰について、また、青少年相談室と大和警察署から情報提供などがありました。

2、県央教育事務所管内教育長会議、10月2日、綾瀬市役所。今年度の採用試験の状況報告や各種研修会の予定、来年度に向けた人事異動方針などについて話し合いました。

3、大和市戦没者追悼式、10月3日、保健福祉センター。戦没者を悼み、多くの関係者が参列し、厳かな中での追悼式でした。

4、大和市少年消防団避難生活施設運営訓練、10月4日、大和東小学校。少年消防団の子どもたちが避難所を想定したパーソナルスペース確保のための設営や、トイレカー見学などを通して体験型の訓練に真剣に取り組んでいました。

5、桜丘地区市民体育祭、10月5日、桜丘小学校。各自治会から多くの方々が参加し、活気ある体育祭が行われていました。

6、大和市野球選手権大会及び大和市内高等学校交流大会開会式、10月11日、大和スタジアム。小中高校生が一堂に会し、開会式後熱い戦いの火ぶたが切られていきました。

7、大和市太極拳フェスティバル2025、10月13日、大和スポーツセンター。市内で活動している20以上の団体、約500人の選手が集まり、日頃活動している演技を披露しました。ご高齢の方もおり、元気の源だと感じました。中には99歳の方もいらっしゃいました。

8、小中校長会、10月15日、大和市役所。今年度の重点項目である魅力ある学校づくり及び人権意識の向上について、振り返りと今後について指摘するとともに、市の財政状況についても触れました。

9、違法駐車追放運動に伴う街頭キャンペーン、10月15日、中央林間駅周辺。交通事故の原因となる違法駐車をなくすための啓発活動として、チラシの配布をいたしました。

10、やまと芸術祭一般公募展芸術部門美術講演会、10月17日、

文化創造拠点シリウス。大正13年に創設した白日会会員の佐藤陽也さんによる「絵から教わる挑戦することの楽しさ」の講演と、一般公募した絵画作品の展示がありました。

11、渋谷小学校運動会、12、大和小学校運動会、10月18日、会場は各学校です。どちらの学校も子どもたちの元気で躍動的な場面が数多く見られ、一生懸命な姿に思わず声が出ました。

13、市民劇団演劇やまと塾第38回公演、10月19日、保健福祉センター。夏の花火を見れなくなったおばあさんと地域の仲間たちの心温まる作品でした。

14、神奈川県市町村教育長会連合会総会、10月20日、おだわら市民交流センターUME CO。県の教育委員会からの来年度事業の説明や、不祥事防止に関する指導のほか、各市町村からの情報提供がありました。

15、学校訪問、10月21日、大野原小学校、上和田小学校、渋谷小学校及び渋谷小学校の中にあるスマイルを見学いたしました。今年度の重点である魅力ある学校づくりについて、進捗状況や成果、課題を伺いました。訪問した学校ごとに独自の良好な取組があり、市内全体でも共有できる機会があるとよいと感じました。

16、つきみ野中学校運動会、10月22日、つきみ野中学校の予定でしたが、昨日の雨のため順延ということで、行っておりません。

17、地域フォーラムIN清川村スマイルウェーブ、10月22日、清川村生涯学習センター。神奈川県が発信している地域で子どもの育ちを応援する運動で、当日の発表は児童生徒が主体となり、日頃の活動内容などを中心に発信していました。来年度大和市にこれが回ってくると聞いています。

なお、びっくりしたのは、宮ヶ瀬中学校は全校生徒1名という中で、1名の子が立派に発表していたこと、小学生から中学生までみんなが一緒に地域の人と何かつくっているという感じがあったこと、あとは折り鶴という合唱曲を小学生、中学生そろって歌っていて、学校だと校歌がみんなで歌える歌としてあるのですが、村の小学校、中学校みんなが歌える歌がそうやってあるということに、感激しました。

18、大和中学校運動会、10月23日、大和中学校。定例会前に少し行きましたが、非常に元気があって活気ある応援合戦からスタートしていました。

報告は以上ですが、ただいまの報告に関して質疑等ございましたらお願いいたします。

森園委員。

○森 園 委 員 11番ですが、学校は違いますが、10月18日、南林間小学校と西鶴間小学校の運動会に行ってまいりました。教育長がおっしゃっていたように、子どもたちの躍動した演技を見て、未来への響きをここで感じるなと思ってとてもうれしかったです。

あと1点、学校訪問ですが、魅力ある学校づくりということで、それぞれの学校が特色ある学校づくりに着手してくださっているので、とても良かったと思いました。帰りに校長先生たちに頑張ってくださいと申し上げまして、手をぎゅっとつかんでくれまして、とても印象的で、子どもたちのために頑張っていただきたいと心から思いました。

○藤 井 教育長 そのほかはどうでしょうか。

前田委員。

○前 田 委 員 久しぶりに学校訪問をして、教育の現場を見ることができて、教育委員として本当に良かったと思っています。学校でどのような課題があつて、先生方、地域の方々がどのような協力をしているのか、いろんなことがよく分かって、今後も引き続やつていきたいと思いました。

○藤 井 教育長 伊藤委員。

○伊 藤 委 員

私も同様で、計6校では足りないと思っているのが現状です。来年度以降はもう少し校数を増やしてもらえたらいなと思っています。

○藤 井 教育長 三浦委員。

○三 浦 委 員

私も学校訪問なのですが、それぞれの学校が子どもたちの成長のために共通の思いを持って取り組まれているということをすごく感じました。どの学校も温かい雰囲気の中で、学びや活動を先生が支えているということも感じられましたので、とても良かったと思います。

○藤 井 教育長 ほかどうでしょうか。よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

ほかにないようでしたら、ただいまの報告に対する質疑を終了いたします。

## ◎議 事

○藤 井 教育長 それでは議事に入ります。

予定している議題はございませんが、議事について委員の皆様から何かご提案はあるでしょうか。

(発言する者なし)  
よろしいですか。

◎その他

- 藤 井 教育長 それでは、その他に入ります。  
各課での報告事項について、順次報告をしてください。  
まずは、「大和市教育委員会の会議における報告事項に関する申合せ」に基づきまして、半期ごとの報告となっている補助執行事業についてお願ひします。質疑につきましては全ての報告が終わってから受け付けたいと思います。
- 初めに、福士スポーツ×ライフ課長。
- 福 士 スポーツ ×ライフ 課 長 教育委員会の権限に属する補助執行事業の管理及び執行状況、4月から9月分について、スポーツ×ライフ課からは所管いたします学校開放事業のご報告をいたします。
- 1ページです。こちらは令和7年度上半期の利用件数と利用人数を学校別にお示ししたものでございます。
- 本年度の上半期につきましては、資料の下の※に記載しておりますとおり、北大和小学校が屋上外壁工事のため、校庭が7月19日から8月31日まで使用不可となっておりました。また、文ヶ岡小学校が同様の工事のため、校庭が7月19日から8月31日まで使用不可となっておりました。
- 表にお戻りいただきまして、一番下の合計欄が、校庭の利用件数でございます。合計で1,638件、昨年度と比較いたしますと112件減少しております。また、利用人数につきましては、合計で6万222人、昨年度と比較して4,894人の減少でございます。
- 続いて、体育館、武道場の利用状況につきましては、利用件数が合計で6,046件、昨年度と比較しますと308件の増加、利用人数につきましては合計で11万7,675人、昨年度と比較しますと9,407人の増加となってございます。
- 中学校の校庭の利用実績ですが、こちらは夜間のナイター施設がある渋谷中学校のみでございます。基本的には中学校は部活動があるため、利用実績はございませんので、渋谷中学校だけを活用しているという状況でございます。
- 今年の夏は大変暑い夏となりました。その対策といたしまして、運動の際に暑さ指数が28以上になった場合は警戒をしなければいけないと

いうことになっておりますが、その場合によるキャンセルを利用料金の還付対象とすることで、暑さを理由に利用者が施設利用を柔軟に判断できるような取組も行ってまいりました。学校及び地域の方のご協力の下、大きな問題等もなく、学校開放事業は進めていくことができたと考えております。

もう下半期に入っておりますが、引き続き同様に地域、学校にご協力をいただきながら安全に地域の皆様方が運動できる環境づくりに努めていきたいと思っております。

○藤 井 それでは、磯部図書・学び交流課長。

教育長

○磯 部 まず、【2】図書・学び交流課の学び交流係で担当する事務の1、社会教育委員会議運営事務についてです。

（1）の令和7年度社会教育委員会議定例会におきましては、表に記載のとおり、4月と7月の2回開催をしております。具体的な内容いたしましては、4月の会議では年度の一番最初ということで、令和7年度の社会教育会計予算及び関係団体への補助金についてなどを審議いたしております。7月の会議では、健康都市やまとMANABI計画に関する点検・評価などを審議しております。

その下、（2）から（4）までについては、神奈川県社会教育委員連絡協議会の理事会、総会、研修会でございまして、本市の社会教育委員がそれぞれ出席をしております。

続いて、2、特別教室開放事業についてでございます。この事業は、市内9校の小中学校の音楽室や図工室など、特別教室を市民の活動のために活用する事業でございます。

令和7年4月から9月、今年度上半期の利用状況は、表に記載しているとおりとなっております。全体の合計は表の下のところに記載のとおり、利用回数は延べ383回、利用者数は延べ5,561人となっております。

昨年度の同時期と比較しますと、利用回数はほぼ変わっておりませんが、利用人数が約140人減少しております。これにつきましては、人數の多い団体による利用が昨年と比べると少し減少したためと捉えております。

続きまして次のページ、【3】図書・学び交流課の図書係で担当する事務の1、子ども読書活動推進会議運営事務につきまして、（1）の令和7年度上半期の会議につきましては、表のとおり4月に1回、書面で開催しております。議題としましては、こども読書よむ読むプラン実施

計画進捗・点検について及び大和市民まつりへの出展報告を行っております。

2、その他の読書推進活動につきましては、5月開催の大和市民まつりにおいて、子ども読書活動推進会議のブースとして、読書の際に使用するしおりやメッセージカードを工作するコーナーの運営や、絵本セットの展示、大型絵本の読み聞かせなどを行っております。

土曜日はあいにくの雨でしたが、日曜日は天候に恵まれて、約230人の来場者がありました。

○藤 井

教育長

○鈴 木  
こども  
青少年  
みらい

課 長

それでは、鈴木こども青少年みらい課長。

資料4ページの1点目、青少年キャンプ施設管理運営事業でございます。こちらは泉の森ふれあいキャンプ場の利用実績でございます。表は4月から9月の上半期利用実績で、令和6年度との対比となっております。

本年度上半期は4,378人の利用がございました。前年比で132人、約3%の減となっております。こちらは5月、6月、7月の利用者は学校や青少年団体等の利用により、前年比で467名増加したものの、4月、8月、9月の利用者が前年比599名減、特に友人同士など一般団体の利用が少なかったものでございます。

コロナ禍が明けて他の娯楽や旅行が再び可能になったため、キャンプ利用者が相対的に減ったことが要因ではないかと分析をしております。なお、高校生の利用が増加している理由でございますが、こちらは5月に、昨年度は利用のなかった市外の高校の団体利用があったものでございます。

続きまして、2点目、親子ふれあい推進事業でございます。第39回親子ナイトウォークラリーを青少年指導員連絡協議会が主管して開催いたしました。日時は7月12日土曜日、16時から21時にかけて、コースは草柳小学校をスタートする4キロ、6キロ、8キロの3コースで実施いたしました。

応募者は552人、145チーム、当選は473人、130チームでした。当初予定をしていた定員より4キロコースを10組、6キロコースを5組、計15組、組数を増やしました。来年度の募集組数につきましては4月に決定をいたしますが、今年度の募集状況を踏まえて、参加を希望される方を受け入れられるよう検討してまいります。

当日の様子ですが、曇りでそれほど気温も高くなく、参加者からは親子で協力して楽しめた、よい運動になった、また参加したいなどの感想

をいただいております。

続きまして5ページ、3点目、青少年育成事業でございます。こちらは、大和ユースクラブの各種活動、社会体験や自然体験を通して、青少年の健全育成を図るものでございます。

ユースクラブに活動を委託しておりますわくわく冒険隊の上半期の活動といたしましては、定例会3回、レクリエーション、ホットドッグ作り、消防訓練を行いました。また、宿泊の事前研修が1回、その後2泊3日の宿泊研修といたしまして、7月23日水曜日から25日金曜日にかけて、千葉県鴨川市の鴨川青少年自然の家などへ行ってまいりました。参加者は小学5、6年生延べ138人でございます。

次に、ユースクラブ自体の上半期の活動といたしまして、中学生のジュニアクラブ、高校生のシニアクラブ、青年のユースボランティアの活動でございます。総会、定例会、ボランティア会議、わくわく冒険隊の支援、ボランティア研修会と、計15回活動し、延べ143人の参加がございました。

最後に4点目、こども体験事業でございます。こちらは、子どもたちが様々な体験を通して豊かな感性やリーダーシップなどを育み、主体的に活動できる青少年を育成するものでございます。

内容といたしましては、市内在住・在学の小学5、6年生20名と中学生9名、こちらは10名のうち1名が途中で辞退となり、合計29名が今年度は被災地の陸前高田市を訪問し、被災した当時の様子を学ぶとともに、地域のお祭りや民泊体験、そして復旧した県指定有形文化財旧吉田家住宅主屋で現地の人々と交流を行ってまいりました。

事前研修につきましては、7月6日と27日に陸前高田市の震災当時の状況や復興過程、復旧した旧吉田家住宅主屋に関する学びや、動く七夕祭りの練習などを行いました。また、7月23日には希望者を対象に、消防本部において震度体験講座を行いました。宿泊研修につきましては、8月7日から9日まで2泊3日で岩手県陸前高田市を訪問いたしました。現地では、津波伝承館や震災遺構等の見学、旧吉田家住宅主屋や民泊の各家庭における体験談等の傾聴、また現地の七夕祭りで山車を引く体験など被災地の復興の様子を見聞きし、現地の方との交流を行いました。

同行した職員からは、現地では子どもたちが当時の状況を真剣な表情で受け止めていたと報告を受けております。現在、事後研修といたしまして、9月7日、10月5日、10月26日、そして11月2日と宿泊研修のまとめや活動報告発表会の準備をしております。

この宿泊研修や事前・事後研修につきましては、一般公募による青少年10名と青少年育成活動実績のある団体や被災地支援の経験がある団体の代表4名の計14名からなる実行委員会が企画・運営を行っております。なお、11月22日に開催されます青少年健全育成大会においては、こども体験事業の内容につきまして参加した小中学生が発表させていただく予定となっております。

来年度の訪問先は現時点では決まってございません。岩手県や、前年度訪問しました福島県は、子どもに様々な経験をさせる選択肢の一つと考えておりますが、参加者と保護者のニーズ等を踏まえ、様々な視点から地域の特徴を生かしたプログラム等について研究をしているところでございます。

○藤 井

教育長

それでは、ここから質疑、ご意見等を伺いたいと思います。

まずは1ページ、スポーツ×ライフ課に関して何かご質問、ご意見ありましたらお願いいいたします。

前田委員。

○前 田

委 員

暑さ指数が28以上のときは運動を控えるようにとありますが、今年度、還付対象になった件数はどれくらいあったのでしょうか。

○藤 井

教育長

福士スポーツ×ライフ課長。

○福 士

ス ポーツ

× ライフ

課 長

暑さを理由に還付の対象になった件数は今手元にありませんので、また改めて報告させていただきます。

○前 田

委 員

来年度以降もっと増える可能性もありますよね。その辺り、どうやって対策をとればいいのか参考になると思いますので、お願いします。

○藤 井

教 育 長

ほかはどうでしょうか。

森園委員。

○森 園

委 員

柳橋小学校でございますが、利用件数が11件ということでとても少ないですが、何か理由がございますか。

○藤 井

教 育 長

福士スポーツ×ライフ課長。

○福 士

ス ポーツ

× ライフ

課 長

直接的な要因は、地区からは上がってきていませんが、チームが少し減ってきているなど、そういう背景があるとは聞いております。

○藤 井

ほかはどうでしょうか。

- 教育長 (発言する者なし)  
それでは、続きまして2ページ、3ページ、図書・学び交流課について。  
伊藤委員。  
○伊 藤 委 員 昨年もそうであったと思いますが、2の特別教室開放事業で、利用実績がゼロの学校があります。特に光丘中学校においては、昨年も年間を通してゼロだったと記憶しております。これはゼロになっている理由があるのか、もしくは単純に利用者がいないのか、分かる範囲で結構ですので教えていただきたいと思います。  
○藤 井 磯部図書・学び交流課長。  
教育長  
○磯 部 図書・学び交流課長 光丘中学校につきましては、開放できる教室において、部活動や学校行事が非常に盛んなため、実質開放できる日がほとんどないと聞いております。また、光丘中学校は比較的シリウスが近いため、団体が使う予定を立てるときに、解放されるかどうか分からぬ学校よりも、近くのシリウスを使うといった傾向があると分析しております。  
○伊 藤 委 員 つきみ野中と大和小においてはどうですか。  
○藤 井 磯部図書・学び交流課長。  
教育長  
○磯 部 図書・学び交流課長 つきみ野中も同様にかなり部活動等盛んで、開放できる日が少なかつたと考えております。大和小につきましては、定期的に頻繁に使っている団体が2つありましたが、その方が体調がすぐれないなどで、2団体とも実質活動が停止していると聞いております。  
申込み窓口が学習センターと一緒にですので、各団体に、学校開放も使えますということは周知していただいているが、なかなか新たに活用する団体が出てこないというのが実情になります。  
○藤 井 ほかはどうでしょうか。  
教育長  
○森 園 委 員 2点ほどです。特別教室でございますが、いつも利用させていただいて助かっております。地域の人も喜んでいますが、利用者数が昨年度と同数ということは、同じような団体がずっと借りているということでしょうか。  
○藤 井 磯部図書・学び交流課長。  
教育長  
○磯 部 学習センターなども同じ傾向になりますが、既存の団体が定期的に使

図書・学び交流課長 っているという形が多いです。学習センターは自主事業でサークルの立ち上げ支援もやっているのですが、学校開放ですとそういったことがないので、既存の団体が定期的に使っているというのが実情になっております。

○森園委員 こういった特別教室の開放があることについて、市民への周知方法は広報に出されるのですか。

○磯部図書・学び交流課長 広報には掲載しておりません。ホームページでの周知や登録団体に対しての周知を行っています。

○森園委員 できれば皆さんに周知できるような方法を考えていただくとうれしいです。

あと1点、3番の2、読書推進活動で、市民まつりでのしおり作りやメッセージカードの工作については、子どもたちがとても喜んでいました。本が古くなったり、入れ替える際に、古い本をコミセンなどいろいろなところに提供していることは知っておりますが、市民まつりで絵本などを子どもたちに提供する計画はございますか。

○磯部図書・学び交流課長 今、委員がおっしゃられたとおり、古くなった本を例えば市内の幼稚園や保育園に提供したりコミセンに提供したりしております。大和まつりのときについては、そういった計画は今のところございませんが、いただいた意見で、図書館とも検討していきたいと思います。

○藤井教育長 ほかはどうでしょうか。

三浦委員。

○三浦委員 2番の特別教室開放事業ですが、先ほど光丘中学校とつきみ野中学校は部活動が盛んで開放できる教室があまりないということでしたが、渋谷中学校も部活動が盛んなのかなと思っていて、ただ、渋谷中学校だけはとても人数が多いので、そのあたりは何か理由がありますか。

○藤井教育長 磯部図書・学び交流課長。

○磯部図書・学び交流課長 渋谷中学校の特別教室開放事業につきましては、渋谷きんりんみらいの会という地域の団体が運営しております、自主事業を行うなどしております。また、当初、渋谷中学校をつくるときから地域に開かれたつくりになっているので、そこが大きく違うところと考えております。

○藤井教育長 校舎の延長線上に開放棟というのが別にあって、そこは地域の方もよくご利用されております。

前田委員。

- 前田 委員 3ページの子ども読書活動推進会議運営事務です。第1回は書面開催ということで、子ども読書よむ読むプランについてや大和市民まつりへの出展報告を行ったということですが、これは文書にして郵送されたということでおろしいですか。
- 藤井 教育長 磐部図書・学び交流課長。
- 磐部 図書・学び交流課長 おっしゃるとおりです。
- 前田 委員 そうすると、名前が読書活動推進会議ですので、会員の方皆さんに2回目、3回目は集まっていたい、ぜひ意見を聞きながら進めてほしいと思いました。
- 磐部 図書・学び交流課長 少し補足させていただきますと、例年第1回につきましては前年度の実績の報告がメインになっております。委員の方や会長からの意見も伺いまして、報告だったら資料を確認すればいいということで、1回目は書面開催ということで、意見があればメールや電話でいただきて、また1回目は議事録としてホームページにも公表し、第2回の対面での開催のときには1回目にこういう意見がありましたということで報告はしております。
- 今後も委員の意見を聞きながら、あまり負担をかけない形で合理的な運営に力を入れていきたいと思っています。
- 藤井 教育長 ほかはどうでしょうか。  
(発言する者なし)
- では、次にいきたいと思います。
- 4ページ、5ページ、子ども青少年みらい課に関するご質問、ご意見ありますか。
- 伊藤委員。 伊藤委員。
- 伊藤委員 2点ございます。おそらく実施に関してはご苦労をされていると思いますが、特に青少年育成事業の大和ユースクラブが行っているわくわく冒険隊やジュニアクラブは、なかなか人が集まりにくい状況なのかなと思っています。そのような中でも、例えば人づてで人数を増やしたりしている現状はあると思いますが、実施をした成果など、そういういったものを次につなげて、それが次の参加を促していくような仕掛けが必要だと感じました。
- 大和ユースクラブが右肩上がりで人数が増えていれば問題はないと思

いますが、現状そうではないと思います。ですから、今参加いただいている方、例えばわくわく冒険隊の参加者138名は非常に貴重だと思うのです。その得たものをそこで終わりではなくて、次につなげていく仕掛けであったり場の提供であったり、そういうことをしていただくと、より実りがあるのかなと思います。大和ユースクラブの行っている事業は青少年育成事業の一環ですから、予算もしっかりついていますので、そのあたりを担当課としてどのように育てて来年度以降考えているのかというところがまず1点です。

もう一つがこども体験事業で、これは教育委員会でいろいろと議論もありましたが、本年度においてはすばらしい成果として11月22日に楽しみしております。震災のことについて再確認をして、そこで学んだことを発表していただくということで、前年度はまた違った取組をしていたわけですよね。

ですからそのあたり、担当課として来年度以降どのようにこども体験事業を考えていくのか、ここで説明できる範囲で結構でございますので、お聞かせ願えればと思います。

○藤井 鈴木こども青少年みらい課長。

教育長

○鈴木

こども

青少年

みらい

課長

まず1点目のユースクラブの今後についてでございますが、委員がおっしゃるとおり、コロナ禍を挟みまして、わくわく冒険隊の活動が一旦中止になっていた時期がございまして、その間で、わくわく冒険隊からユースに入るという循環が一旦途切れた時期がございました。そのためには、コロナ禍前はたくさんいたユースの登録者数が、コロナ禍後に半減している状況でございます。

現在は活動を通じて、わくわく冒険隊の小学校5、6年生の子どもたちに、ユースクラブのお兄さんお姉さんが格好いいな、すてきだな、自分もそういった扱い手側としてやってみたい、と思ってもらえるような、本当に一つ一つの地道な活動ではありますが、そういった姿を見せるということ、そしてユースクラブ自体が楽しいと感じるような仕掛けというほど大きなものではありませんが、そういったことを意識して職員一同でフォローをしているところです。

以前はベテランの青年ボランティアを中心に企画や運営に携わっていたところがありましたが、現在は、上手にできなくてもいいので、中学生、高校生が前に立って率いる練習など、そういったものを青年のボランティアが支えるといった視点で活動をしているところでございます。

昨年度から今年度にかけては、わくわく冒険隊からユースに入りたい

という子どもたちも出てきておりますので、また来年度に向けて、わくわく冒険隊からユースに入りたいという子を少しでも増やしていくような、そういった一つ一つの関わりをしていきたいと思っております。まず1点目は以上です。

2点目でございますが、こども体験事業の訪問先は、教育委員会の皆様や市議会からも様々な意見が寄せられているところでございます。私どもとしては、担い手である実行委員の青年たちの成長というのも支援をしていく大事な事業だと思っており、どのような活動がよりよいのかというのは、昨年度、今年度、また一昨年までと、いろいろと比較をしながら、今どういった方法がいいのか研究をしているところでございます。

一方で、市の財政が厳しい中で、このユースクラブの宿泊の活動とこども体験の宿泊の活動は目的が似ているのではないかといった意見も出されていることから、こども青少年みらい課としては大切な事業をどのように来年度実施していくのかということは、今まだお伝えできるほどしっかりと具体策が出ているわけではないのですが、岩手県や福島県、またそれ以外の土地についても若者たちと一緒にどのような方法がいいのか意見を聞きながら検討をしているところでございます。

○藤 井

ほかはどうでしょうか。

教育長

森園委員。

○森 園

委 員

3点ほどよろしくお願ひいたします。1点は、親子ふれあい推進事業の親子ナイトウォークラリーでございます。これは本当に人気で、私も地域のほうで応募したのですが抽選だから心配とよく聞きます。実際今年は82組が抽選漏れしております。

夏休みに親子でふれあいができるということをとても楽しみにしている親がいるということも事実で、できればわくわくしながら応募した子どもたち全員を参加させてあげたいというのが私の思いですが、そのあたりはいろいろな運営方法もあるので、2年連続で今年も駄目だったという子がいないようなシステムを考えていただくとうれしいと思います。

もう1点は、伊藤委員がおっしゃったような、わくわく冒険隊からユースクラブにぜひ行ってほしいという思いもございますが、ユースクラブが設立されてからかなりの年数で、一生懸命このユースクラブの火を灯してくれた経緯はすばらしいことだと思っています。でもいろいろなことがあって、こういう組織はときによって風前の灯火になるときがあります。それを支えてくれたということはすばらしいのですが、

だからといってただ続いていいわけではなくて、いろいろな発想を転換させた中で、わくわく冒険隊からユースクラブへというよりは、新しい応募方法で魅力あるアプローチでの募集、市ではこのような活動もやっている、こういう体験もできるというような方法の勧誘もあるかなと思っております。

ユースクラブは本当にすばらしいと思っています。頑張っていただきたいと思います。

あと1点です。これはもう何回も申し上げましたが、もう10年も陸前高田市の体験は続いている、事例発表も申し訳ないですが大体同じようなことを10回見せていただきました。新しい体験、いろいろな方法、例えばこの前やっていた海の体験や山の体験など、いろいろな体験方法があると思います。去年の福島での農業体験は、そういった体験であれば高座渋谷でもやれるという意見もありました。他市に行ってそこで体験するという方法は、また違う良さもあるとは思いますが、一回方向転換してまた元に戻ったということは、いろいろご事情があったと思います。

今の説明によると、旧吉田邸の訪問、地域住民との交流、そして七夕祭りへの参加、それから3.11のときの状況の見学といった感じなので、ほぼアプローチは変わっておりません。

来年はどうなるかまだ未定ということでしたが、私の意見としては体験は様々にあるということをやはり基本に入れた中での検討をお願いしたいと思っております。

○藤 井 鈴木こども青少年みらい課長。

教育長

○鈴 木 まず1点目の親子ナイトウォークラリーの関係でございますが、今回の募集の組数の決め方は、昨年度申込みをされた方の人数を基に、ここまでであれば受け入れられるであろうということで、昨年度に比べて募集の組数を増やしました。しかし、それを上回る申込みがありましたので、青少年指導員が受け入れ可能な範囲で、それぞれ4キロコース、6キロコースの組数を増やしたという経緯がございます。

8キロコースの募集が定員に満たなかったということもございますので、当初は昨年度の実績から考えて120チームを受け入れる予定でしたが、実際には130チームを受け入れたところでございます。

来年度の定員を決める際にも、今回の応募者である145チームを参考に、青少年指導員の受け入れ可能な範囲を検討していくことになります。今は純粋な抽選で決めておりますので、委員のご提案があったよう

な、昨年度も今年度も駄目だったという子がないような抽選方法については、一つの方法として青少年指導員に伝えていきたいと思います。

2点目のユースクラブの関係でございますが、広く応募を募るということは大変大事なことだと思っております。現在は年に1回、市内の中学校、高校にチラシを配布して、ユースクラブの募集をしているところでございますが、ホームページ等で活動の具体的な内容を発信する等、どんな楽しい活動をやっているのかということが伝わるように、工夫をしていきたいと思っております。

3点目、こども体験事業の訪問先でございます。来年度につきましては、いろいろな方から様々なご意見を寄せさせていただけているのは、期待をしていただいているものと捉えております。私どものほうでも、子どもたちに何か日常ではできないような、心が震えるような、そういう経験をしてもらいたいと思っておりますので、いろいろと研究をして考えていくたいと思います。

○藤 井 ほかはどうでしょうか。

教育長 福士スポーツ×ライフ課長。

○福 士 先ほど前田委員から学校開放事業につきまして、暑さを理由とした還付の件数のお話がございました。確認がとれまして、21件ということですございます。

スポーツ  
×ライフ  
課 長

○藤 井 では、よろしいでしょうか。

教育長 続きまして、第14回大和市子ども読書感想文コンクール兼第8回大和市図書館を使った調べる学習コンクール表彰式について、菊地指導室長。

○菊 地 指導室長 まず、先日渋谷中学校内のスマイルへの訪問、ありがとうございました。移設して半年が過ぎましたが、本当に充実した取組ができております。

では、第14回大和市子ども読書感想文コンクール兼第8回大和市図書館を使った調べる学習コンクール表彰式についてご説明をいたします。

資料をご覧ください。

開催日は11月22日の土曜日、10時30分からを予定しております。

会場は、大和市文化創造拠点シリウスのやまと芸術文化ホールのサブホールにて行います。

まず、第14回大和市子ども読書感想文コンクールですが、2, 46

2点の応募がありました。市長賞・教育長賞・教育委員賞が各1名、優秀賞が低学年、中学年、高学年、中学生の部門で各3名、合計15名の受賞者がおります。

続いて、第8回大和市図書館を使った調べる学習コンクールですが、7,538点の応募がありました。市長賞・教育長賞・図書館長賞・親子賞が各1名、優秀賞が7名、計11名の受賞者がおります。

委員の皆様には、表彰と講評をお願いします。また、講評後、市長賞を受賞した児童による朗読と感想発表を予定しております。なお、今回展示がありませんが、子どもたち同士が他者の成果物や受賞した作品に触れるということは、非常に良い刺激になると思っております。展示となるとどうしても興味のある人だけになってしまふので、学校に巡回展示を行うなど、今、よりよいやり方を模索しているところです。

また、来年度においては、指導室で行っている、いじめ・暴力行為等防止ポスターコンクールがありますので、それと併せて展示や表彰式を行うことも検討しております。

○藤 井 それでは、何かご質問、ご意見ありましたらお願いいたします。

教育長 伊藤委員。

○伊 藤 委 員 今、室長がおっしゃっていただいた巡回展示はすばらしいことだと思っておりますので、ぜひ多くの学校で実現できるようにお願いできればと思います。

○藤 井 ほかはどうでしょうか。

教育長 森園委員。

○森 園 委 員 私も伊藤委員と同じご意見でございまして、中央に集まるというよりは、巡回ということがとても大切だと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○藤 井 ほかはよろしいでしょうか。

教育長 それでは、予定されている報告は以上でございますが、そのほか事務局より何かあるでしょうか。よろしいですか。

(「はい」の声あり)

委員の皆様からは何かございますか。

(「ありません」の声あり)

特にないようでしたら、11月の会議の予定をお知らせいたします。

11月定例会は、11月14日金曜日、午前10時からを予定しております。

◎閉 会

○藤 井  
教育長

以上で、本日の日程は全て終了いたしました。  
これにて教育委員会10月定例会を閉会いたします。

閉会 午前10時54分